

# IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム 第32回会合 発言録

2023年3月20日

【加藤】 それでは、5時2分となりましたので、そろそろ、第32回のIGF活発化チームの会合を始めたいと思います。

皆さん、今日もお集まりいただきありがとうございます。今15人の参加ですので、大体いつものぐらいの数、お集まりいただいていると思います。

今、山崎さんからお示しいただいたように、今日のアジェンダ書かせていただいておりますので、いつものように進めたいと思いますが、まず、アジェンダ、この項目の4番目にありますIGFのホストということで、政府関係の方からの進捗状況等の御報告、今日は、飯田様、おいでになりますでしょうか。総務省様から佐々木様、玉置様のお名前が……。

飯田様、今参加いただいたようですね。では、飯田様、お願いいたします。

【飯田】 ありがとうございます。特に私どものほうからの報告としては、3月8日から10日にオープンコンサルテーションとMAGが開催されておりますので、そのときの様子を簡単に御報告します。特に今回は、今年のIGFのメインテーマ、それとサブテーマというのを議論して、ほぼほぼ決定をしたという中身になっております。

それで、メインテーマ、サブテーマにつきましては、活発化チームのほうでも御検討いただいて、いろいろアイデアをいただいていたかと思います。それを基に総務省内でもいろいろ議論をしまして、日本からは、ちょっとこれ、事後報告のようになってしまって恐縮なんですけれども、5つ、例えば日本としてはこんな感じのものをいろいろ考えているというのを提案しています。このスライド見えていますでしょうか。このスライドでいうと3番目に列挙しております5つのテーマを、皆様からいただいた御意見も踏まえてつくって、当日提案、提示した形になっております。

これは、Global Internet for everyoneというのと、Internet for everyone-a critical infrastructure for democracy、それからBetter internet for the planetで、Internet way of ethics,peace and civilization、ちょっと難しいですけど、それからTrustworthy Internet for the futureと、

Empowering multi-stakeholders for the future of the Internetと、これは何かすごく定番的な感じもしますけども、ということで趣旨も説明して、日本のコミュニティーからの提案を踏まえて、これは実際、出発前には大臣とも話をしまして、こういうふうに並べて見せてみようかみたいなことになっております。

それで、一応簡単にこちらから説明をして、例えばGlobalというのはもちろんアンフラグメンテッドということの意味しているとか、当然、インクルーシブネスとしてeveryoneを入れていたり、やはりdemocracy、デモクラティックなバリューとか、エシックスとか、あるいはトラストということが大事だと考えているということとともに、IGFの一つのコアの理念としてマルチステークホルダーリズムというものを掲げて、それをエンパワーするというのも重要だと思っているということで説明したんですけども、Globalとか、Trustとか、インクルーシブネスみたいなのところには当然、結構賛同があったんですけども、議論していく中で、エンパワーにかなり人気が集まりまして、やっぱりIGFの一つの、あるいはインターネットのコアの価値としてエンパワーというのがあるんじゃないかということで、一方で、マルチステークホルダーという言葉は、一般の人には分かりにくいのではないかというのをMAGが議論しているのはなかなか複雑な思いでもありましたけれども、現実的にやっぱり彼らは、マルチステークホルダーという言葉が浸透してないということはある程度認識した上で、All Peopleみたいな言い方のほうが、ふだんのインターネットコミュニティー以外の人に訴求していくのに適当だろうという意見が結構大勢を占めました。

一方で、リーダーシップパネル、これはヴィント・サーフが議長をしまして、ちょっと今回は私どもから吉田総務審議官は出られなかったんですけども、ここがMAGに先立って2日間議論しておりまして、そこでは、当面のリーダーシップパネルとしての、キャッチフレーズとして、The Internet We Want、ここで切れるんですけども、というのを掲げることにしたと。すごくこうキャッチーで、かつWe Wantで終わりますので、じゃあ何だろうということをもしろ考えさせたいということだと思んですけども、そういうものを掲げることにしたというインプットがありまして、これも捨てるのが難しいということになって議論が結構続きました。

それで、結局この2つを合わせて、The Internet We Wantで、Empowering All Peopleという並べ方でメインテーマにしようというのが最後の結論になりました。途中で、いや、それだったらEmpowering All People for the Internet We Wantのほうが、意味が取りやすいんじゃないかという意見も出て、そちらも結構、賛同を集めたんですけども、最終的には、我々が望むインターネットの在り方とは何なのかというのをオープンクエスションにしない

で、全ての人々をエンパワーするような存在としてのインターネット、それこそが我々が追求するものであるという意味で、これは分断を避けるとかインクルーシブネスを向上させるというようなことも含めた、若干ポリティカルなニュアンスも含めたテーマなんであるという解釈が割と賛同を集めまして、最後はこれになっています。

ホスト国として、こっちのほうがいいと最後言って決まった形になっていますので、それこそマルチステークホルダーで、皆で合意して決めたテーマというふうに御理解いただければと思います。それで、最終的に、私どもが提示したもののの中から1個選んだということではないんですけれども、議論の中にいろいろインプットをした結果として、これが出来上がったというふうに御理解いただいてよろしいかなと思っています。

あと、それ以外というか、そのもう一つ下の具体的なレベルでのサブテーマというところでは、5個ぐらい、五、六個というのが相場感だったんですけども、列挙していくうちに、やっぱりこれもあったほうがいいとか、最後は、特に2番目のFragmentationですけども、これは、どこかで含まれているというふうに事務局は説明したんですが、結局主張する人が最後まで降りなくて、最後、追加されて、Avoiding Internet Fragmentationというのが独立したサブテーマになっています。

あとは、AIがあり、securityがあり、Data GovernanceとTrustがあり、それから、Digital DividesやInclusionの話があり、あとは、ここのDigital Governanceという言葉、若干議論があったんですけども、ここには実はsovereigntyというのが入ってたんですが、sovereigntyはやめようと言って、それはちょっとみんな、解釈によっては内側を向いて分断を認めかねない、その言葉になり得るのでやめようというふうに日本から提案しまして、Cooperationに変わっています。

そして、Human RightsとFreedoms、あとSustainabilityと、ここもEconomy Environmentだったんですけど、これだと広過ぎてよく分からないから、本当にEnvironmentに絞ろうということで、結局これを全部列挙する形になりまして、このサブテーマが8個になって、多分一番今までで多いということだと思います。

今後セッションを募集するときに、これを見ながら、皆さんの御提案がどこのテーマを議論するものなのかというイメージを持っていただきながら、企画を書いていただいて応募していただくと、MAGの審査のほうで、これはこのテーマだねということで、そのテーマごとに分析というか評価をされて選定がなされるということになってまいりますので、これを御参考に、別にここにはまったから通りやすくて、この端境になるから通りにくいというこ

とではないと思うんですが、あくまでも参考として、皆さんにお使いいただくと。ただ、インターネット、IGFの議論としては、こういうサブテーマを全部包含したものになっていきますということだと解釈いただいているのかと思います。

ということで、大体3日間かけて、MAGメンバー以外から、まずこういうことをいろいろ聞き、その後、MAGメンバーでこれを議論して、このテーマを決めた。会合終了時点ではこの8はあんまりはっきりしなかったんですが、その後で結局その押したり引いたりがあって、8つで固まったというふうな結果になっております。

ちょっと長くなりましたけども、私から以上です。

**【加藤】** どうも、飯田さん、ありがとうございます。大変細かい経緯を教えてください、大変御苦労いただいたのかなというのが分かりますけれども、皆様方から御質問とか御意見ございますでしょうか。御意見というより、もう少し詳しい内容とかで御質問あればと思いますが、いかがでしょうか。特にございませんか。

すぐなれば、飯田さん、私からちょっと一、二点伺ってよろしいですか。言葉の説明とかそれだけなんですけど、大変すばらしく、包括的なのをまとめていただいたのと、サブテーマも広いので、いろいろと我々、これから意見を述べたりするチャンスが増えるのかなというふうに思うんですが、確認までなんですけれども、この全体テーマのThe Internetという場合、Internetの「I」が大文字になっていますけれども、The Internetというと現在あるインターネットということを示していると思いますけれども、これはそういう意味でよろしいんですね。

**【飯田】** そういう解釈でよろしいと思います。一つの分断もなく今ある……。

**【加藤】** 今あるインターネット、ずっとこれまでインターネットと我々が呼んでいた、The Internetというところある特定のものを指すというふうに一般的には思われていると思いますので、それでよろしいんですね。

**【飯田】** はい。

**【加藤】** そうだと思いますが、それで。それで、英語の意味としてWe Want-Empowering All Peopleという場合は、英語の読み方としては、そのThe Internetが全ての人をエンパワーするというふうなつながりなんですかね、2つつながるということは。

【飯田】　　そうですね。ここは、そのMAGでの議論としては、The Internet We Wantで切れると、さすがに……。

【加藤】　　あまりにも尻切れになってしまう。

【飯田】　　あまりにも、解釈はいくらでもできると。それで、そこにもう少しホスト国としては方向性を出したいということを書いて、それはそのとおりだなと。それで、それがじゃあ何なのかといったときに、やはり全ての、これはマルチステークホルダーというとか特定のステークホルダーを指しているようにも見えるので、ありとあらゆる人、今はまだつながっていない人も含めてありとあらゆる人をエンパワーして、社会や経済を活性化、あるいはよくするような存在としてのインターネット、そういうものが、我々が目指すものなんだという意味を込めて合意されたと思います。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございました。非常にクリアになりました。つまり、英語としては、まずはInternet which Empowers all peopleという、つながりもあるという意味ですね。

【飯田】　　そうですね。Internet We Wantの中身は、まさにそのInternet which Empowers all peopleということになるんだと思います。

【加藤】　　ありがとうございます。大変クリアになって、素晴らしい表題だと思いますが、ほかいかがでしょうか。皆様方の御質問とか。この言葉は非常に包括的で、いろんなことがサブテーマを見ても言えるのかなと思いますが、こんなことはそれに沿っているのかなとか、これからそういう議論をする中で、御質問等あればいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

もし御質問ないようでしたら、引き続き、このことはずっとこれからも、テーマのセッションの提案とかそういう中で出てくると思いますので、また、引き続き皆様の御指導よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

【飯田】　　ありがとうございます。

【加藤】　　それじゃあ、アジェンダの次に移りたいと思います。同じくMAGに御出席だった河内さんおいでになりますか。

【山崎】　　まだいらっしゃってない。

【加藤】 まだいらしてないですね。

【山崎】 ごめんなさい。入られていますね。

【加藤】 入られていますか。河内さん、MAGの立場から今御説明いただいた、ウィーンでの会議の御報告とか、さらに解釈とか裏話とかがあればぜひよろしくお願いしたいと思います。

【河内】 今入ったところで、ちょっと遅れましてすみません。

【加藤】 今、飯田様から、日本から提案いただいた5つのテーマ、さらに今回決まった全体テーマ、それと8つのサブテーマについてお示しいただいて御説明いただきました。若干重なっても結構ですので、御出席の御報告という形でお願いできればと思います。

【河内】 3月7日の午後、リーダーシップパネルと打合せというか意見交換会がありました。7日は、リーダーシップパネルとMAGメンバーのクローズドな意見交換会だったんですけど、8日のほうは、一応オープンコンサルテーションなので、オブザーバーの方とか一般の方も傍聴できるというか参加できる形でリーダーシップパネルのメンバー、主にヴィント・サーフと、もう1人、ちょっとお名前忘れちゃいましたけど、女性の方が参加されて意見交換を行ったような形です。

リーダーシップパネルとの話については、既にリーダーシップパネルのメンバーの方々が2月から何回か会合されていて、今回なぜ、オーストリアのウィーンでやったかということ、リーダーシップパネルの方々が、もう既にその日程6、7日で、ウィーンで会合をするということが決まっていて、それに合わせてMAGを同じ場所で開催したということになっています。なぜウィーンだったかというのは、何かオーストリアのメンバーの方が、ぜひこういうことをやるべきということで、ウィーンで行われたと聞いています。

それで、リーダーシップパネル自体の会合の結果は、今朝かな、昨日かな、チャングタイからまとめが送られてきていますので、そのうちネットに、もうされているのかな、ちょっと分からないですけど、リーダーシップパネルの会合の結果みたいなのがどこかに載っていたような気がしたんですけど、載ってないですか。

【加藤】 Meetingsとか何か、そういう中にいろんなのがありましたね、たしか。

【河内】 この最初のページのAboutのIGF Leadership Panelの中に、Panel Meeting Summariesというのがあると思うんですけど、映されていますか。その画面見てないんですけど。

【加藤】 そうですね。

【河内】 そうですね。それに……。

【加藤】 それですね。

【河内】 あっ、もう載っていますね。それです。ということです。それはじゃあ、また見ていただければと思うんです。

それから、飯田さんがもう御報告されたということなので、たくさんいろんな意見が出て、あれにする、これにするといろいろな行ったり来たりを繰り返して、ようやくテーマとサブテーマは何とか決まったという。かなり時間を使ったと思いますけれども、決まりました。

ちょっと去年は、多分このミーティングもオンラインでやったので、バーチャルでしかやらなかったもので、そのときにはもう何かこう、テーマとサブテーマはぽんと出てきて、いろいろ意見はあったと思うんですが、MAGでいろいろもんだという意識というか記憶があまりないんですけど、今回はかなりあれこれあれこれいろんな意見が出て、いろんな提案が出て、増えたり減ったりとかいろいろしていたんですけど……。これはリーダーシップパネルの余りですね。多分、前はGlobal Digital Compact (GDC)が出てその中のテーマというか、5つのテーマみたいなものがそのままサブテーマになった感じだったのかな。だからあんまり議論がなかったのか分からないんですけど、今回は、何か去年と同じでいいじゃんみたいな意見もありましたけど、結局いろいろ議論した結果、いろんな意見が出て、最終的に飯田さんが御紹介いただいたサブテーマになったというような感じでした。

あとは、次回のオープンコンサルテーションの会議の日程が、一応、6月はもう、何かいろんなほかのイベントとかがあって難しいということで、7月の上旬ぐらいでやるということで、また皆さんの希望を聞いて決めるということにその場はなって、この間、ポールが、投票のあれが来て、投票しました。まだ決定はしてないですが、1週目なのか2週目なのかぐらいの違いだったと思います。3週目もあったかな。1週目は7月4日が終わってからにすとか、何かアメリカのあれですかね。その翌週にするか、その翌々週にするかとか、翌々週にすると何かITUの会議とかぶるからどうのこうのって言っていたんですが、別にITUの会

議に出る人がMAGのメンバーの中にはほとんどいないということが分かったので、関係ないねという感じで、それも候補に入っていました。

そんな感じで、すみません、あまりちゃんと報告になってないかもしれませんが、何か御質問とかあれば。

【加藤】 河内さん、ありがとうございました。皆様、御質問とか、いかがでしょうか。

じゃあ、また私からちょっと確認ですけれども、次回が7月上旬というイメージは、これから4月、5月と、今回のテーマ、サブテーマに沿って意見募集をした後、選考に入る。その選考手続というのはもうそれに先駆けてやるイメージですかね。7月……。

【河内】 ワークショップですよ。

【加藤】 ワークショップの選考。

【河内】 すみません。ワークショップの選考の話もその次回の会議のスケジュールのときに話が出て、要するに、いや、じゃあ、もっと、6月が無理なら5月にやったらどうか言って、そしたら、5月だとやっぱり、そのワークショップの提案の締切りが5月の下旬ぐらいになっていて……。

【加藤】 そうですね。5月20日か何かだったのですね。

【河内】 それで1週間ぐらいしかないので、要するにその1週間で来た提案を全部、整理してまとめてということを事務局が作業しなきゃいけないくて、やっぱりちょっと無理かなという話になって、5月は駄目、却下になったんです。なので、そこら辺のスケジュールは毎年と変わらずに、5月20日まで行くか、その提案の締切りで、その後、事務局が整備していろいろまとめて、MAGがそこの詳細まで、MAGを、去年はグループを幾つかに分けて、それぞれが審査というか、ちゃんと中身を読んで、評価をした上で、その結果をまとめた上でMAGの会議があったんですけど、多分、今年も時間的には余裕があるので、そういう手順になるんじゃないかと思います。

【加藤】 そうしますと、スケジュールどおりだと5月20日頃にセッションの申込みの締切りがあって、その後事務局が1か月ぐらいかけて整理をして、事前にMAGに渡されるとしても、最終的には、7月上旬のMAGの会議で取捨選択するという感じで、今スケジュールが決まっているということですね。



【河内】　　そういう予定になるんじゃないかと思います。

【加藤】　　7月上旬に次のMAGがあるとすると、10月までに、9月ぐらいにまたあるんですかね。

【河内】　　どうですかね。バーチャルではやるかもしれないんですけど、リアルではもうやらない、やっている暇ないんじゃないかなと……。

【加藤】　　ちょっと厳しいですよ、スケジュール的に。

【河内】　　はい。去年も、もう2月にバーチャルでやって7月にリアルでやっただけで終わったので、あとバーチャルは何回か秋にありましたけども、多分もう、対面でやるのは7月だけになるんじゃないかと思います。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。ほかの方、御質問等ございますか。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。また、スケジュールとか、今お話が出たようなテーマの内容についても御質問あれば、ぜひこのメーリングリストでも投げるなり、直接飯田様や河内さんにも質問していただけるなりということで、お願いしたいと思います。

じゃあ、アジェンダに沿って次に進めさせていただきます。

ちょっと立石さんのほうから御報告といいますか、御相談事項があるというふうに伺っております。御予定の都合で、できれば少し前倒しにということで、この6番、7番の項目に加えて、以前からこの活発化チームで、いろいろとこのIGFの活動を広めるに当たって、いろいろなところと接触をしていこうという話があったと思いますが、その辺に関して少し御検討いただいているということなので、もしよろしければ、立石さん、ここで、順番が大体もうそういう順番になってくると思いますので、お話しいただければと思います。

【立石】　　すみません。加藤さん、ありがとうございます。この一月ぐらい、一月もないのかな、この数週間で結構いろんなところから、セッション提案したいとか、派遣したい、行きたいとか、高校生連れていきたいとかって話が幾つか舞い込んできて、それでちょっと対応は、すみません、間に合わないものは対応はしているんですけども、私も大学生にも今お話ししていますし、高校生にもお願いをしているんですけど、それから一般の方もそうなんですけれども、やっぱりIGFが何かよう分からんわというのは結構皆さん正直なと

ここで言うていただいております、それで結構、やっぱり組織体じゃなくて会議体ということのイメージがつかみにくいとか、そもそもガバナンスという言葉が分かりづらいという話もあったりとか、説明会をしてくれという話が幾つかあります。

それで、もう間に合わないものを今からやっているんですけども、それは面倒くさいと言っちゃうと怒られるんですけど、何回も同じ話してもあれですし、私1人の話をするよりは、いろんな方のお話を聞いていただいたほうがいいかなと、それも高校生とか大学生が聞いても分かるような内容で、お祭り騒ぎと言ったたらこれもまた怒られますけれども、IGFに来るとこんな雰囲気皆さんお話ししていますよとかということ語ってもらう、オリエンテーションと言っていいのかと思うんですが、オリエンテーションフォーラムみたいなものを今一応、予定しています。ちょっと書き物が今、手元になさそうなので、後ほどメーリングリストか何かでお送りしようと思うんですけども、4月14日の16時からハイブリッドでやると思います。場所は、ちょっとまだあれなんですけど、六本木あたりか赤坂あたりを今、借りられそうなところで予定してまして、そこはまたちょっと調整して、できましたら御連絡しようと思うんですけど、ハイブリッドです。

それで、ちょっとすみません、まだ私、お声がけを全員というか十分言ってないんですけども、過去にIGFに参加された方を中心に、できれば写真を中心にして、人数にもよるんですけども、5分か10分ずつ、過去に参加した方にお話をさせていただいて、こんな楽しいと言うとこれもまた語弊があるかもしれませんが、楽しいあれだからぜひ来てねというのを、高校生、大学生に呼びかけるようなつもりでお話ししていただけないかということで今、何名かからお願いをしようとしているところでございます。

それで、これを聞いていらっしゃる、あるいはこのメーリングリストに入っている方にも後で全部まとめて投げようと思いますので、この14日の16時から可能な方は、その都内の場所においでいただいたり、あるいは無理でしたらオンラインでもいいですし、最悪、こういういい映像を持っているからみんなに見てほしいと、映像というか写真でもいいんですけども、ありましたら、写真だけ提供していただいてもいいんですけども、できれば動画でメッセージを入れていただくというのいいのかなと思っています。

そういう、本当に簡単な会を90分から延びても2時間までという形、1時間半から2時間までという形のものを開催しようと思いますので、御協力いただける方はぜひと思います。ちょっとまた、4月14日となると、もう3週間あるなしのところまで来ているので、後援とか共催とかがなかなか大変なものですから、承認を得られるところから共催という形でやって

います。うちのプロバイダー協会、JAIPAから、IT団体連盟の国際委員会、京都情報大学院大学、あとは、今、IP電話に関連する一般社団法人日本ユニファイド通信事業者協会(JUSA)という団体のほうから一応共催をいただけるという形のところで今進めていますので、こちらのほう、もし共催、御講演いただけるようでしたら、そちらも併せてお願いしたいと思えますけれども、何せ特に行った方が、写真1枚でも結構ですので、メッセージとともに送っていただけるか、あと、動画で私が撮ってもよろしいですし、あるいはZoomなんかで撮っていただいたものを送っていただいても結構ですので、そういう形で、分かりやすいものを目指したいと思えますので、ぜひとも皆さん、御協力のほど、よろしく願います。

高校生が4月14日登校日ということなんですけど、16時というので、オンラインで、これ、すみません、もう録画して、後でも見られるようにしようと思っています。そこも、ちょっと調整している暇がなかったので、もう、どちらかというと来ていただける方のほうを先に切っちゃっていますので、そこはあまり調整をしてないです。というのは、例の、今日、さっきテーマ、サブテーマの発表がありましたけど、一般の方がセッション提案したいという方に早めにお知らせしないと、多分5月になっちゃってからだともう間に合わないという話になりますので、それでとにかく、まずオリエンテーション、見るだけでも、後で見るだけでも。派遣の場合は、IGFへの参加申込みまでに間に合えばいいので、そういう形にさせていただきました。

以上ですけど、もし御質問等ございましたらお受けしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

**【加藤】**           ありがとうございます。御質問、御意見いかがでしょうか。

まさにちょうど山崎さんからうまくまとめていただいたんですが、IGF2023の広報ということで、IGFは何かということ、なるべく分かりやすく、楽しくというお言葉をお使いですけれども、分かりやすく、高校生や大学の方を頭に入れながらやっていただくということで、立石さんからの御案内としては、これをもうやるという前提で、ここで活発化チームに参加している方も、ぜひいろんな形で参加してもらいたいということでもよろしいんですね。

**【立石】**           そうです。ぜひ願います。

**【加藤】**           ありがとうございます。こういう形でいろんなところにこのIGFの活動が広がっていくというのは非常にありがたいことだと思いますので、私も、ここにいらっしやる

方々、どういう形でも、リモートでもやれるということですので、ぜひ参加されたらどうかと思います。

それで、あと詳しくは立石さんのほうから、詳しくといたしますか……。

【立石】 はい、メールで。

【加藤】 スペシフィックには、今、共催というか支援されている団体や、それから場所等も含めて御案内いただけるということですね。

【立石】 後ほどお送りいたします。よろしく申し上げます。

【加藤】 皆さん、いかがでしょうか。さらに御質問とか。飯田さん、お願いいたします。

【飯田】 すみません。質問ではなくて、大変すばらしい企画をありがとうございます。本当に、楽しいというのはまさにそのとおりだと思っていて、私も紹介するときに、省内でもそうなんですけど、巨大な大学の文化祭みたいなもんだと思ってくれるほうが分かりやすい……。

【加藤】 いいですね、それ。

【立石】 ぜひ飯田さんもよろしく申し上げます。

【飯田】 できるだけ参加させていただきますので、よろしく申し上げます。

【立石】 よろしく申し上げます。あと、河内さんもよろしく申し上げます。

【河内】 ぜひ参加させていただきます。

【立石】 申し上げます。以上でございます。

【加藤】 巨大な大学の文化祭というのはぜひ、どこかで使わせていただくといいかもしれない。

あと、立石さん、前村さんが前回の報告会のときに作っていただいたというか、ビデオみたいなのは、ああいう形のものも少しは流されるんですか。それとも本当に写真でイメージを言葉で伝える感じなんですか。

【立石】 多少、ああいうのもあったほうがいい。ちょっとそれは、すみません、どれぐらいの方が発表していただけるかというのにも……。

【加藤】 なるほど、時間の関係とかもありますしね。

【立石】 そういうところだと思います。でも、あったほうがいいとは思っています。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。ぜひ賛同して、参加したいというような方が言っていただければと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。コメントがないということは、非常にありがたい企画であるということなのかなと思いますので、立石さん、ありがとうございました。さらに何かありましたら、またメーリングリストでもよろしくお願ひしたいと思います。

【立石】 よろしくお願ひします。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございました。

次のアジェンダ項目として、前回NRIとして、この活発化チームに参加している3人の名前を国連の事務局のほうに連絡して、会議に参加を始めさせていただいているということで、日本のIGFのコーディネーショングループとの関係を整理したほうがいいんじゃないかということでしたが、これ、山崎さん、今日、上村先生は御参加でないですね。

【山崎】 はい。いらっしゃってないので、ごく簡単に紹介して、続きはメーリングリストでやるというほうがよいのではないかと。

【加藤】 そうですね。その話をちょっとしていただいた後、若干のNRIのアップデートも、併せて私もさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【山崎】 加藤さんと河内さんと、私、山崎が、3名が連絡先という話がありまして、それをするには、今、IGF事務局側に登録されているのはJapan IGFということで、その方々がずらっと並んでいて、そのうちどなたかが連絡先になるということになっているので、コーディネーショングループ側で何か決める必要があるのではないかとということを上村さんがおっしゃっていて、そのやり方についてちょっと上村さんとやり取りしまして、大体こんな感じじゃないかなというのがこの1から3になります。

それから、ここで決められることではなくて、コーディネーショングループ側で決めることになるのかなというふうに思いますので、ここでは、ざっと紹介して、あとはメーリングリストでも御紹介した後に、そのコーディネーショングループ側で議論するということになるんじゃないかと思います。

まず、1番ですけれども、このJapan IGFのコーディネーショングループメンバーというのは、少し前のままで固まっているので、それを最新のものにアップデートをした上で、加藤さんは既に入られているので、河内さんと私を追加するというのをJapan IGFのコーディネーショングループ側のメーリングリストで提案すると。この3月中というのは案ですけれども、あまり遅いと意味がないというか、河内さんと私が参加が難しくなってしまうたりするので、なるべく早いほうがいいんじゃないかということです。

2番は、必ずしも1番とリンクしませんけれども、前回、第31回の活発化チーム会合で上村さんと西潟さんがおっしゃっていたかと思いますが、Japan IGFコーディネーショングループと、この活発化チームの関係がちょっとよく分からないということもあり、それを解きほぐしたほうがいいんじゃないかというのに沿って、まずは宙ぶらりんになっていましたチャーターを暫定のものとしてでも採択する。もしくは、採択せずに、これまでこういう経緯があったんでそれで進めるということ、コーディネーション側で決めるということ、コーディネーショングループ側のメーリングリストで提案したらどうかということです。

3番目は、もっと究極ということで、コーディネーショングループもしくはJapan IGFをどのようにするかということ、コーディネーショングループ側で議論して結論を得る。これは大分息が長い話になりますが、これをIGF2023終了後にでもよいのか、終了前にしたほうがいいのかとかというのは、ちょっと議論が必要かなということです。

それで、チャーターというのは、2種類ありますけれども、新しいほうがより使えるんじゃないかという個人的な印象はありますけれども、これは、2020年2月にIGF2019の報告会というのを開催する予定だったので、その直前まで議論、内容を詰めていたのですが、コロナでその報告会が中止になってしまったので、それでちょっと宙ぶらりんになっているように見えます。

ということで、1から3を今後、やっていったらいいんじゃないかというのが、私と、主に上村さんに伺った意見を書いていますけれども、ということですので、コーディネーショングループ側で今後議論になっていくというふうになるんじゃないかと思います。

私からの御紹介はこんな感じですけども、加藤さん何かあれば。

【加藤】 ありがとうございます。上村さん、今日御出席できなかったということで、山崎さんからこれをうまくまとめていただいたんですが、基本的には、コーディネーショングループのほうの手续といいますか考え方の問題であって、コーディネーショングループでどうするかというのを前村さんも、もう少し上村さんともお話をした上で、決めていくのがいいんじゃないかというふうにお考えですので、そちら側で基本的には対応して、活発化チームには必要に応じて御報告するということになるかと思えます。

個々に、特にIGF Japanの改廃・改組ということまで書いてありますけど、この辺も、特にこの活発化チームで議論したり決めることではないと思えますので、そういう意味で、あくまで参考でこういうことを検討中であるというふうにお考えいただければと思います。繰り返しになりますが、引き続き、このことを御指摘いただいた上村さんとはお話しして、早急に対応したいというふうに私は思っています。

ということで、御質問とか御意見ございますでしょうか。もしなければ、一応IGFの事務局に、さっき山崎さんからも御指摘いただいたとおり、山崎、河内、加藤の3人で会議には出させていただいておまして、NRIとしてのメーリングリストにも入って、メールは受け取っています。前回のこの活発化会合のときに御報告したとおり、NRIとしてセッションを設けるということで、今回、大きなテーマやサブテーマが決まってきたので、今後そういうことについて、中身について議論していくことになると思えます。

次回のこのNRIの国際的な電話会議で、前回、四十五、六人参加したんですが、今後、もっと増えてくるのかなというふうに思いますけれども、その会合で、テーマの話とか、既にMAGでこういう議論があったとかそういうことも情報としてやり取りしていますので、そういうことの議論が始まっていくのかなというふうに思っています。

次回が、3月28日の真夜中です。ちょっと時間が12時なのか1時なのかという、時差との関係があったんですが、恐らく日本時間の1時なんじゃないかなと思えますが、山崎さん、そうですね。あれ、最終的には。

【山崎】 いえ、最終的には……。

【加藤】 12時でしたっけ。

【山崎】 12時からになりました。

【加藤】 12時でしたっけね。というようなことで、今回のそういう会合があって、それまでは、今のところこういう動きがあるという情報がメーリングリストに流されているというのが今のNRIグループの動きです。繰り返しになりますが、今後、NRIセッションをどうするかというようなことが決まってくるのかなというふうに思っています。

河内さんから何か、このNRIということで付け加えていただくことございます？ 特にはないですかね。

それじゃあ、御質問、御意見なければ、次の項目、今後のスケジュール確認に移らせていただきたいと思います。これももう既に、お話、幾つか出ていますけれども、ちょっともう一度おさらいで、山崎さん、お願いしてよろしいですか。

【山崎】 今年は、以前、河内さんもしくは飯田さんから御紹介あったとおり、IGF本体が始まるのがかなり早くなります。いつもは11月末から12月頭とかなんですが、10月上旬にIGFがあるということで、全部前倒しになりますので、それに伴って本チームでも、事前会合なり、事前準備、セッション公募とかというのを早め早めにやらないと間に合わなくなるというおそれがありますので、確認して、もうそろそろ、プログラム委員会を設立して、公募の準備をやらないと間に合わないんじゃないかというふうに思いましたので、逆算してスケジュールを書かせていただきました。

IGF2023が10月8日から12日、APrIGFが9月、これはまだ日程なり場所は発表されていないです。3月13日はその開催地公募の締切りでした。ですから、国内事前会合も多分9月中にやらないと間に合わず、Aprとはかぶらないときにやらないといけないということです。そうしますと、セッション募集は五、六月にやらないと間に合わずということは、プログラム委員を募集してというのはもう4月中にやらないと間に合わない。テーマ募集もしないと間に合わない。そういうふうに考えますけれども、その辺は、もしお考え、コメント等あればと思いますけども、いかがでしょうか。

【加藤】 皆さん、いかがでしょうか。山崎さんのポイントは、今年、日本での国内のIGFの事前会合をやる前提で、今から準備をするとすると、もう早いうちにプログラム委員会をつくってテーマ募集をして、9月にやるとしてもその日程を決めて、そこに準備をしないといけないという御趣旨だと思います。そのことに関して、いかがでしょうか。御質問でも結構ですけれども。



【飯田】 多分、10月のプレイベントというか、その周知や勧誘を目的としたイベントということだろうと思いますので、なるべく早いほうがいいだろうと思いますし、今年は例年よりグローバルが早いということで、これはもう各国もそういう準備をしなきゃという意識でおりますので、ホスト国としても、やはりそこは前倒し前倒しで御準備いただいたほうがいいのではないかと思います。

【加藤】 分かりました。方向として、この活発化チームがこういうことをやるという前提で、9月、クエスチョンマークって山崎さんは書いていただいています、9月上旬ですよね、タイミングとって、希望としては。

【山崎】 そうですね。あまりぎりぎりだと、相乗効果というか……。

【加藤】 そうですね。今飯田さん言われたプレイベントの効果という意味でも、あと10月の会議への参加の練習にもなるし、勉強にもなるし、いろいろ、さらに10月にリモートでも参加される方を啓蒙するとかということからすると、ある程度期間があったほうがいいということで、上旬クエスチョンマークですね。そういうことかと思えます。

それで、そういう意味で、方向として、またプログラム委員会をつくるということかなと思いますが、皆さんいかがでしょうか。特に手が挙がっていないか、拝見しているんですが。沈黙は、そういうことだよと皆さん思っらっしゃるのかなと思いますが、そういう解釈でよろしいでしょうか。いや、もう今年はやめたほうがいいとか、何かそういう御意見があれば、今言っただけならばと思うんですが。

【河内】 すみません。河内ですけど、ちょっと手を挙げました。

【加藤】 すみません。よろしくお願いします。

【河内】 10月で国内であるので、特に、何か9月、もうちょっと前のほうがいいのかなという感じはしたんです。ただ、8月だと夏休みになっちゃうので、やっぱり9月の本当に初めの頃しかないのかなとはちょっと思いました。ただそれだけなんですけど。

【加藤】 ありがとうございます。多分、山崎さんが9月と書いていただいた理由もそういうことかなと思うんですが、あとは、いろんなほかの会合というのは結構9月から始まるのが多いので、その辺の日程のチェックと、あとAPrIGFとの関係ですね。同じ週じゃないほうがいいのかなという気もしますので、その辺の前提に、この頃、9月上旬をめどにやるということで、今日は、方向性だけ決めさせていただいてよろしいでしょうか。特に異議

とか御意見ございますでしょうか。どういうふうにできるかということも至急詰めるという前提で申し上げておりますけれども。

じゃあ、そういうことで、次回の会議までにもう一度、プログラム委員の募集とか、今後のスケジュールを周知徹底して、ボランティアを募って、スケジュールを決めていくというふうにしたいと思います。

また、くどいですが、特にコメントございませんですね。それじゃあ、そういうことで、この今後のスケジュールといいますか、特に重要な国内会合の項目については、これで終わりにしたいと思います。

次の議題ですけれども、前回、前々回から、この活発化チームのこの会議自身で、さらに具体的なテーマの議論について意見交換をする場とするのはどうかということですが、これについて、特に、こういう形でということがなければ、先ほど立石さんから、実際、関係するところ、グループでいろんな意見を議論したり、IGFのプレイベント的な会議を催していただくというような、オリエンテーションの場が設けるといようなことがあったので、取りあえずはこういうアドホックな会議にこの活発化チームも入るとい形で、進めればいいのかないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

なかなかいろんなイベントが重なって、毎回、毎月とか2か月に1回、具体的な会議をやるというのが結構負担にもなるのと、それから、9月に今申し上げた今年の事前会合をやるということになると、そのスケジュールも結構押してくるので、今回で、毎月、こういう形でこの活発化チームとして具体的なテーマの議論をするというのは取りあえずエンディングにさせていただいたらどうかなと思いますが、何か皆さん、コメントございますか。

正直、何かやりたいとか、やったほうがいいという御意見は強いんですけど、なかなかこういう形でやったらいいというところにつながらなくて、継続審議事項というのを継続したいといいますか、なかなかこれが今決められないというのが、私もいろいろ伺うような御意見だというふうに理解しています。当面そういうことでよろしいですか。

西潟さんも入られているんで、ですけれども、ぜひ西潟さん、こういうテーマでやりたいとか御提案いただければ、当然それはその都度やりますけど、今日、もう毎月こういう形でやりますとかということを決めるのが、この2回の会合でなかなか決まらなかったということもあって、あまり形から入るのはどうかなと。もし何か、そういう会合をテーマとしてやるのがいいとか、提案セッションを4月、5月にグローバルの提案をされた方が、このこと

について事前にみんなの胸を借りたいといいますか、そういう会で1回議論してみたいというようなことがあれば、むしろそういう場として当面やっていくというのはどうかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

【西潟】 すみません。西潟ですけども、御指名なので御発言させていただきます。

【加藤】 ありがとうございます。前回もこういうことをやっておられていて……。

【西潟】 いや、そうなんですけど、総務省以外の人にちょっと分かりにくかったら申し訳ないんですけど、総務省としてやりたい部分については、飯田のほうから説明しておりますが、総務省としてやる部分があるんですよね。なので、ここ（活発化チーム）で何をやるかについては、少なくとも前回発言した際は総務省はニュートラルなつもりでいたんですよね。

【加藤】 分かりました。

【西潟】 もちろん、その球出しについても総務省にお願いしたいということであれば、仮にそれがこの活発化チームの総意であるというか、この場でどういう形で決を採るのかも含めてなんだけれども、そういう形でお示しいただけるのであればやらせていただくというのはあり得るんだけど、少なくとも前回申し上げたのは、別に我々が何かここを主導するという趣旨ではなくて、むしろ、私のイメージで申し上げたのは、前回加藤さんから御紹介いただいた、NRIの話……。

【加藤】 NRIですね。

【西潟】 それとの連動をしっかりとやるべきであるということを申し上げたわけです。

【加藤】 分かりました。NRIで何かやるという場合に際しても、やっぱりそのテーマを一度こういう場で、活発化チームの皆さんの御意見を議論する場をつくりたいというような形でも当然、いいのかなというふうに思います。

【西潟】 そこは私もいいと思います。ありがとうございます。

【加藤】 じゃあ、後日、西潟様からもコメントいただいたとおり、これは活発化チームとしてそういうものが、提案が出てきたら、この実質的な議論の場を考えるとということで、当面は、この継続してやるとかという形を決める件については継続審議ということにさせていただきますと思います。

ということで一応、本日のテーマをカバーいたしました。本日の議論を受けたTodoとしては、先ほど立石さんから4月14日に企画があるという御発言をいただいて、内容を詳しく伺ったところで、ここにいらっしゃる方で、それじゃあそれに参加しようという方は参加していただくということで、よろしいかと思います。

それ以外にいただいた中では、特に……。ごめんなさい。すごい重要なことが抜けていました。9月にIGFの国内会合をやるに当たって、プログラム委員会を立ち上げるということで、そのプログラム委員の募集、スケジュールの提案をメーリングリスト上で引き続き行うということで、これは、当面、括弧書きで誰ということになるとすると、決まらなかったんですが、立場上、山崎・加藤ということではいかがでしょうか。山崎さん、いつものようにお手伝いいただいてよろしいでしょうか。

**【山崎】** はい、一応名前を書いておきますが、もしどなたかやりたいという方がいらしたらぜひ……。

**【加藤】** ぜひお願いしたいと思いますね。過去の例に沿って、提案だけはするということで、山崎さんのところにはそういうノウハウが集まっているというふうに思いますので、基本的には昨年のケースに沿って、少なくともこういうスケジュール等、提案できるかなというふうに思います。ほかに何か、Todoということでありましたか。この2つですね。

それでは、次回のスケジュール確認ということは、今日のベースにもう一度、追加しますが、次回から、また、今度はセッション募集のためのいろんな働きかけとか、さらには、今の9月に国内会合を今年やるとしたら、その準備の議論というのが中心になっていくのかなというふうに思います。

あと、NRIのコーディネーショングループと書いてありますか、NRIのほうでも動きが出てくれば、それを報告させていただくということにしたいと思います。

最後、次回打合せの開催時期ですが、4月17日、前回から4週間後の月曜日ということでお話をいただいておりますので、特に異論がなければ、この日はどうしても都合が悪いということがなければ、4月17日夕方5時から、次回の開催ということにさせていただきたいと思います。この頃にはIGFの10月の会議のセッション募集も始まっていると思いますので、その辺の情報は、分かり次第、メーリングリストでも流していただくということにしたいと思います。

**【実積】** すみません。実積ですけど。

【加藤】 実積先生、お願いします。

【実積】 すみません。ちょっと今日、途中からしか出てなかったのですが、前半部分にもうお話しされたら分からないんですけれども、セッション募集とかテーマ募集は4月の末ぐらいの締切りというようなスケジュールで進めておられるのでしょうか。

【加藤】 5月20日です。

【実積】 国内の事前会合は5月20日。

【加藤】 ごめんなさい。国内の事前会合は、今まだそれは決まっていらないんですが、多分……。

【山崎】 まだはっきりした日にちまでは決まってないです。試案を今日出したところで、4月はてなと書いてある……。

【加藤】 恐らく4月だけには無理で、5月末ぐらいまで延びるのかなという感じはしますけれども。

【実積】 周知をしなきゃいけないということを考えると、次の4月17日に決まってからだと実質1か月しかないんですけど、それで間に合うのかなというのを少し心配するところでもあります。ここのメンバーであれば、もう既に、今日の段階で、そんなの来そうだなというようなことはあると思うんですけども、それ以外の人たちに広げるとするのは一つのこの活性化チームの目的だったと思うんですけども、そうすると、4月17日というタイミングで決まったとして、それから文章を作って、まいてということになると、結構きちきちというか、学会への周知にしても、メーリングリストで出さなきゃいけなくなると、すぐぱつと出せるわけじゃなくて、理事会の決定とか、ややこしいところがあったりするので、それを考えると、もう少しスケジュールを、締切りを後ろに倒すか、あるいはその作業をもう少し早めていただかないと結局届かないというような感じがしました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。御指摘のとおりだと思いますが、ちょっとプログラム委員会自身も、まだどういう形で行うのかということも決まっていらないので、その作業の前段階を今から1か月でやることも結構厳しいので、4月17日にその辺の準備を大体終わっ

て、こういう形でということをお願いして、それから、募集期間は後ろ倒しにならざるを得なければそうなるのかなというふうに思いますけども、山崎さん、いかがですかね。

【山崎】　そうですね。実際のところはそういう感じにならざるを得ないんじゃないかと思います。

【加藤】　そうですね。ということで、そのときにもう既にIGFのグローバルのほうのセッション募集が始まっているので、その辺の情報も適時流しながら、それも踏まえながらということになると思います。

【実積】　すみません。IGFのグローバルのセッションの締切りはいつでしたか。

【加藤】　5月20日の予定だったと思います【IGF事務局の発表によれば5月19日23:59UTC】。

【実積】　なるほど。フォローができてなくて申し訳ないんですけど、そのCall for paperかCall for sessionの情報というのはどこかに公開されているんですか。

【加藤】　いや、まだそれは、そういう形では、Call for sessionという形ではまだ出てないですね、今日現在は。

【河内】　まだだと思います。

【実積】　そうすると、やはり、このメンバー以外の人から出してくれというのはかなり厳しいなというのが正直なところになりますけれども、その辺りはどうなんでしょうか。アウトリーチの話はたしか昔もあったような気もしたんですけど、4月の後半になってからアウトリーチ開始だと、本当に出てこないなという感じがちょっとします。

【加藤】　そうですね。ちょっとそういうこともあって、さっきの立石さんからのアウトリーチの動きとか、そういうのに積極的に支援していきましょうということにもなっていて、そういうことを同じようにボランティアで御企画いただければ、活発化チームとしても、それをサポートするということは継続していきたいと思いますけど。

【実積】　すみません。ついでに、そのさっきの立石さんのやつと、これも議事録を読んでいるだけなので間違っていたら申し訳ありませんが、4月14日にされるんですけど。

【加藤】　そうです。4月14日の午後4時からというふうにおっしゃってますが。

【実積】 4月14日だと、多分大学生の動員は難しいと思います。理由は、始まったばかりで、まだクラスが形成されてない状況になるので、5月に入ってからでないと、一般の大学生に来いというのはなかなか厳しいんだろうなというような感じはいたしますけども、4月14日の動員というのは何か考えておられるのでしょうか。

【加藤】 それは、高校生とかコンタクトしている大学とかが、もう既に立石さんのほうで、そういう動きがあって、そういうところには声かけていらっしゃるというふうには…

【実積】 じゃあ、既に参加者は決まっているということ。

【加藤】 母体になる、それを支援するというか共催される方は決まっているという、教育関係の団体も決まっているというふうに理解しています。

【実積】 分かりました。高校だったら多分大丈夫だというふうに思いますが、ちょっと大学は厳しいかなという感じ。

【加藤】 そうですね。高校と大学って言いますが、高校が結構、立石さんの先ほどのチャットの書き込みを拝見すると、高校を派遣するとかというようなを書いていらっしゃいますね。

【実積】 分かりました。了解しました。

【加藤】 立石さんからさらに、この開催の主催とかその辺も含めて、このメーリングリストに出していただくことになっていきますので、ぜひそれを参考にさせていただいて、できれば、実積先生の御関係の方も同じようなことをやろうということになれば、我々この活発化チームの中から、一緒にボランティアに参加して、IGFってこんなのですよということを御説明する会を企画できればというふうに思っています。それは5月になってからでももちろん結構ですけれども、いつでも声かけていただければ、できる限り、この活発化チームの方々が御参加いただけるというふうに思います。

【実積】 もしそれであれば、学会はもう日程がどんどん決まっているので、6月とか7月に学会があります。私と関係しているところの情通学会にしても、公益事業学会にしても、情報法制学会でも日程が決まってまして、セッションが締め切られている状況になっています。今から入れるとすると、パンフレットなりを作って、簡単なので構わないのでそれでまくとかというのが正常だと思うんですけども、もし可能であれば、学会に向けてそういった

ものを作るとか、情報を一枚にまとめるのがあれば使いやすいなというような感じはしました。

【加藤】 分かりました。

あと、ほかにコメントとか御質問等ございますか。一応、今日の議題は全てカバーしたんですが、いかがでしょうか。

もしなければ、次回、4週間ですけれども、その間に、今、書いていただいたTodoリストに沿って、具体的な作業をできる限り進めていただきたいと思います。

最後に何か、追加……。

【山崎】 山崎ですけれども、Todo1個追加しました。NRIのコンタクト先に関連して、コーディネーショングループ側で議論をキックするというのを……。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 上村さんと加藤さん……。

【加藤】 あと、前村さんも入れておいていただけますか。私の前に上村、前村、加藤というふうに、今まで積極的に、前村さん、活動もされてたので、お願いします。

それじゃあ、特に追加、御質問、御意見ないようですので、今日はこれで終了したいと思います。

どうもありがとうございました。また、次回、よろしく願いいたします。